

海外安全対策情報（2016年4月～6月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

昨年3月の前知事の汚職容疑による逮捕に続き、州政府幹部の解任等の頻繁な人事異動が進められたが、昨年9月には知事選が平穏に行われ新政府が発足した。当地は政治的には安定しており、現在のところ治安情勢に悪影響を及ぼすような反政府勢力等の動きは特段見られないが、昨年8月に当地市裁判所がイスラム教経典コーランの解説書籍に関し、同書籍を過激主義的資料と認定し、当地に居住するイスラム教信者が反発する状況が生じたが、その後、州裁判所が市裁判所の認定を破棄し、問題は収束した。

他方、当地ではサハリン州が北方領土を事実上「管轄」していることから、北方領土問題に対し、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年2月7日（我が国では北方領土の日）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。平成27年については、「北方領土の日」に集会は行われなかったものの、11月16日、同月18日に当館建物前等において小規模な抗議集会が行われ、平成28年については、2月11日に当館建物前で北方領土返還反対団体による小規模な抗議集会が行われており、今後も引き続き注意を要する。また、昨年、当地では、第二次大戦終了70周年に関連し、9月2日前後には軍事パレードや「日本軍国主義からのサハリン南部の解放」をテーマに種々の行事が実施され、サハリン州政府主催の国際学術会議においては領土問題に関する対日批判がなされたものの、反日的な集会等の開催は見られなかった。

なお、当地では現在までのところ、具体的なテロ情報はないものの、ヨーロッパではテロ事件が発生しているところ、当地においても駅、空港等不特定多数の者が集まる場所を訪問する際は、周囲の状況に注意を払う等留意が必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 一般的治安情勢に関しては、サハリン州の各地において殺人のほか、高齢者や女性などの弱者を狙った路上強盗、住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者も含む女性への婦女暴行、デゾモルヒネ、大麻等の薬物の違法所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多く発生しているが、金品の強奪を目的としたものも発生している。今期においては邦人被害事案は発生しなかったが、過去には当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

- (2) 治安当局の発表によれば、2015年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は11,270件であり、2014年の11,509件と比べ、239

件と僅かに減少したものの、以下の内訳にもあるとおり、2015年は前年と比べ、殺人、粗暴行為等人の生命に直接関わるような凶悪事件の登録件数が増加しているほか、薬物違法流通についても多数発生している状況にある。また、2013年2月には、ユジノサハリンスク市内に所在する教会に武装した男1名が侵入して銃を乱射し、2名が死亡、6名が負傷する事件が発生しており、これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢はこれまで以上に予断を許さない状況にあると言える。

(3) 主な内訳（括弧内は、昨年を100%とした場合）

- ア 殺人及び殺人未遂：82件（110%）
- イ 重度傷害：194件（86.6%）
- ウ 強姦及び強姦未遂：12件（63.2%）
- エ 強盗：16件（43.2%）
- オ 略奪：259件（75.3%）
- カ 窃盗：4,343件（94.1%）
- キ 詐欺：856件（139.6%）
- ク 粗暴行為：11件（137.5%）
- ケ 薬物違法流通：1,095件（89.6%）

(4) 邦人被害事案

特になし

(5) 邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）（詳細は別添の報道参照）

ア 強盗

本年4月から6月の間、コルサコフ、ホルムスク、ネベリスクで強盗事件が発生しており、店舗を狙った強盗事件、路上強盗事件が発生している。

イ 殺人、過失致死等

本年4月から6月の間、ユジノサハリンスク、ノグリキ、コルサコフ、ポロナイスク、ネベリスク、ティモフスク及びトマリで殺人及び殺人未遂事件が発生しており、飲酒中の喧嘩から殺人に発展した事件、親子喧嘩から殺人に発展した事件、銃器を用いた殺人未遂事件が発生している。

ウ 暴行・傷害・強姦等

本年4月から6月の間、ユジノサハリンスク、マカロフ、ホルムスク、ウグレゴルスク及びオハで傷害、重度傷害、強姦等の事件が発生しており、銃器を用いた傷害事件、

警察官に対する重度傷害事件のほか、未成年者に対する強姦事件が発生している。

エ 窃盗等

本年4月から6月の間、窃盗事件に関してはサハリン州内の各所で頻発しており、空き巣、スリ等のほか、ATMを破壊して現金を盗もうとした窃盗未遂事件、自動車の盗難防止装置を特殊な機器で解除し、車内の金品を盗む窃盗事件が発生している。

オ 薬物・銃器・爆発物

本年4月から6月の間、ユジノサハリンスク及びホルムスクで薬物の不法所持等の事件が発生しており、違法薬物のインターネット販売事件、合成麻薬の違法所持事件が発生している。また、ユジノサハリンスクに所在の「北海道センター」近くのATMコーナーにおいて、金銭強奪目的と思われる低威力の爆発装置を使用した爆破事件が発生している。

3 誘拐・脅迫事件発生状況（詳細は、別添の報道参照）

本年4月から6月の間、ユジノサハリンスクにおいて、ナイトクラブへの入店を拒否された者が、同ナイトクラブに対し、爆発物を仕掛けたと脅迫電話を行い、客、従業員を店外に避難させたほか、周辺地区を閉鎖する事件が発生しているが、爆発物は発見されず、犯人は警察に拘束されている。このほか、ユジノサハリンスクにおいては、商店店内における客同士の言い争いから銃器を用いた脅迫事件に発展してケースがあったほか、ホルムスクにおいても、女性に対する銃器を用いた脅迫事件が発生している。

4 日本企業の安全に係る諸問題

特になし

事件詳細記事（当地通信社等の事件記事を引用）

1 強盗

- ①〔強盗〕 4月8日の夜遅くに、コルサコフ地区内務部の当直士官がある食料品店に機動班を出した。（通信社によると、これは商店「MART」のことである。）この原因は、商店からの強盗に関する通報だった。事件現場に到着した警察官は、警備員に取り押さえられている目の部分に穴の開いたマスクをつけた男を発見した。販売員と警備員は、次の様に語った。夜11時ころ、店舗にマスクを被った男性が立ち寄り、そして、手袋をつけた手には、拳銃の様なものがあつた。犯人は、レジに向かい、拳銃の様な物で脅しながら、売上金を渡すよう要求した。この際、警備員はその様子を見て、容疑者の手中の物体に気付いてはいたが、抵抗を試みた。まず、襲撃者は、警備員の頭をその物体で何度か殴った、そのせいで、玩具のプラスチックの表面から破片が飛んだ。警備員は、拳銃は実は偽物ではないかと推察し、犯人に反撃し、その結果、犯人の抵抗を挫いた。この時すでに店には、警察が到着し、上述の犯人を引き渡した。現場に到着した機動捜査班によって、マスクと足跡、手袋及び玩具の拳銃が押収された。その拘束者の言によると、犯行は事前に計画したものであり、店の近くに、書類と着替えの入った鞆を隠し込んでいた。この事実に関し、刑事事件が提起された。容疑者に対し、拘禁下での身柄保全処分措置が選択された。
- ②〔強奪〕 4月28日、63歳のホルムスク在住の女性がホルムスク警察に訴えた。被害者女性は、彼女の家の近くのマロジョーシ通り地区において、見ず知らずの若者が彼女に駆け寄り、力尽くで金銭の入ったバックをひったくり、逃走したと話した。全ては、年配女性が犯人の特徴を記憶することができないほど、あっという間に起こった。それにも関わらず、刑事課の捜査員は、容疑者を特定し、彼を拘束した。強奪に関与していたのは、20歳の無職の住所不定の男だった。捜査員は、犯人の居場所を特定し、強奪した年金受給者の財産を発見した。現在、窃盗物は押収され、間もなく、法律上の所有者に返還されるだろう。この事実に関し、刑事事件が提起された。刑事課の捜査官は、同様の犯罪行為への関与（余罪）を追求している。
- ③〔強奪〕 5月16日、37歳のネベリスク在住の男が、酒を購入するための金を乞うため、年配の男性宅に訪れた。知り合いの願いを79歳の年金受給者が、拒否する回答をすると、犯人は彼の顔を殴り、公然と1万2000ルーブルを盗んだ。5月18日の夜になり、男性は警察に訴えた。警察は、当直時間中に容疑者の居場所を特定し、容疑者が持っていた残金5000ルーブルを押収した。残りの金は、窃盗者が酒の購入にすでに使っていた。ネベリスクの住民は、すでに窃盗行為で刑事責任に問われ、その際、彼に2年6ヶ月の自由剥奪刑が執行猶予付で下されたこと

が明らかとなった。刑事事件が提起され、犯人に対し、現在地を離れない旨の誓約による身柄保全処分が選択された。

2 殺人,過失致死等

- ①〔殺人〕 ユジノサハリンスク内務部の警察官が殺人の容疑でユジノサハリンスク市ホームトヴォに在住の47歳の男を拘束した。4月12日,ユジノサハリンスクのある住人が市警察の当直に隣のアパートで男性の遺体を発見したと通報した。事件現場へ直ちにハンドラーと捜索犬を含む機動捜査班が到着した。鑑識官は,遺体を調査し,殺人から3時間以上は経過していないことから,犯人の痕跡は,「冷えていない」との結論に達した。事件現場を嗅ぎ回しながら,ドイツの警察犬は浴室の下に入り込み始め,その後,通りに出た。捜索は,正に労働日の真っ最中のユジノサハリンスクの繁華街で昼間に,行われた。警察犬は,捜査係員を約1キロメートル案内しつつ,警察官を元の被害者の家へと導いた。警察犬は全く痕跡を見失ったと推測されたが,2度目の試みの際,警察犬はアパートの中の道程を反復した。警察犬は出入口から出てくると,1人の男に駆け寄り,求むべき対象が発見されたことをハンドラーにわかってもらえるよう,男の傍らで座った。結果,犯人は警察によって拘束された。その後,容疑者は事件現場から姿を消す前に,浴室に立ち寄り,髭を剃り,タオルを浴室の下に捨てたことが分かった。その後犯人は,街を出て,隣接小地区に向かい,再び,事件現場に戻った。容疑者の捜索に参加したドイツの警察犬はすでに約5年,警察で勤務しており,ハンドラーの話によると実際,一般捜索型の犬では優秀であることを指摘しなければならない。この事件で,刑事手続きの決定が採択された。容疑者は拘禁下にある。
- ②〔殺人〕 4月14日,ゴリャチエ・クリュチ村のユジノサハリンスクーオハ間の自動車道路の道端に頸部に多数の刺傷による暴力での死の痕跡がある身元不明の男性の遺体が発見されたことについては,以前,サハリン州捜査委員会ノグリキ地区捜査課によって伝えられていた。殺人により刑事事件が提起された。殺された者は,25歳のノグリキ在住の男性であることが分かった。殺人の容疑者は,34歳の地元の男であることが特定された。捜査によると,被害者は,容疑者に彼の電動鋸を500ルーブルで購入するよう提案した。彼らが現場に到着したとき,そこには鋸があり,被害者は,鋸の価格を1000ルーブルまで引き上げた。男達の間で喧嘩となり,その過程で彼らは,容疑者の車に乗車した。容疑者は,ユジノサハリンスクーオハ間の自動車道路の方面へ出発した。途中,容疑者は,車を止め,被害者とともに車から降り,この際,容疑者は,持っていたナイフで被害者の頸部を少なくとも18回刺した。その後,遺体を車に積み,ゴリャチエ・クリュチ地区に運び,その道端に遺棄した。現在,刑事事件に関し,起訴のため,事件状況の特定及び基礎証拠の確保に向けた捜査活動が行われている。
- ③〔殺人〕 4月16日,サハリン州捜査委員会コルサコフ捜査課において,4月6日,

申告者の42歳の息子は、休息するためコルサコフ地区ムラビヨボ村に出掛け、4月10日から連絡が取れなくなっていることに関して、ユジノサハリンスクに在住の女性から申告を受けた。補充捜査を行った結果、申告女性の息子の遺体が発見された。彼を殺害した容疑で、殺人未遂で自由剥奪刑に服していた前科があるヴィコフ村の在住の男が拘束された。以後、捜査官の請願により、彼に対し勾留下における身柄保全処分措置が選択された。捜査によると、被害者と彼の古い知り合いは一緒にムラビヨボ村にある古い知り合いの別荘に出掛け、そこにはすでに、別荘を警備している彼ら共通の知り合いがおり、様々な雑役を行っていた。4月10日、別荘の所有者が去り、そして、容疑者と被害者の間で喧嘩となり、その過程で後者は、容疑者が被害者の別荘で働いていた際、多額の建設資材がなくなったと不満を言い始めた。喧嘩の結果、被害者は、火掻き棒を持ち、容疑者の腕を殴り、これに対し、容疑者はナイフを掴み、被害者の胸部を一度刺した。ナイフによる傷を受けながら、男性は部屋に逃げ去った。1日経ってようやく、容疑者は、被害者が逃げ去った部屋から何も音が発しなかったことから、そこへ行き、男性の遺体を発見した。犯罪の隠蔽のため、容疑者は翌日、遺体を外に運び出し、家の近くにある窪地に遺体を埋めた。刑事事件捜査が続けられている。

- ④〔殺人〕4月26日、ポロナイスク市ポベダ通り86において、3体の遺体が発見された。今朝、現場にサハリン州捜査委員会刑事課の捜査員が出発した。目撃者が伝えたところによると、アパートの出入口の敷居付近には、刺傷がある男性の遺体があり、アパートの5階には更に2体の遺体がある。男性なのか女性なのか、まだ不明であるが、全ての遺体には同じ性質の傷がある。現場では、捜査員が作業を行っており、犯行状況を特定している。
- ⑤〔殺人〕ロシア連邦捜査委員会極東運輸捜査局機関により、コルサコフ商業港での新生児遺体の発見事実に関して、ロシア刑法典の母親による新生児殺人により刑事事件が提起された。この捜査資料によると、5月9日の昼、港域の岸壁近くの水中で新生児の遺体が発見された。発見現場に、直ちにサハリン州運輸捜査課、サハリン州内務局のほか、法医学鑑定官を含む機動捜査班が出発した。捜査員によって、子供の遺体及びその発見場所の綿密な調査が行われた。事前の資料によると、新生児は、外部に暴力的な死の痕跡がない男児だった。死亡したのは、おおよそ1ヶ月前だった。現在、遺体は、コルサコフの法医学鑑定局に搬送された。新生児の母親の人定は、特定されていない。捜査が続けられている。
- ⑥〔殺人〕5月8日昼、サハリン州捜査委員会ネベリスク捜査課において、ネベリスク市レーニン通り63のアパートの1つで45歳の地元女性の解体された遺体が発見されたとの通報を受けた。この事実に関し、ロシア刑法典に規定の殺人の犯罪兆候により刑事事件が提起されたと捜査局報道課は伝えている。この犯罪行為の容疑で複数の前科がある66歳の上述のアパートの家主の男が拘束された。捜査による

と、4月30日、被害者は、容疑者のもとを訪れ、そこで、彼らは酒を飲んだ。飲酒の過程で女性は、家主を侮辱し、家主はナイフを手に取り、女性を刺し、就寝した。その後、翌朝、男は、女性が死亡しているのを発見し、男は数日、アパートを離れ、知り合いの元に居た。数日を経て、容疑者は、犯罪の痕跡を消す目的で遺体を解体したが、それから逃れることは出来なかった。

- ⑦〔殺人〕サハリ州捜査委員会ティモフスク地区捜査課において、ティモフスク市ハリトノフ通り18のアパートの1つで、開放性頭蓋脳損傷の変死の痕跡があるこのアパートの37歳の女性所有者の遺体が発見されたとの通報を受けた。この事実により、捜査課によって、ロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起された。ティモフスク捜査課幹部によって、然るべく計画された警察の捜査課職員との緊密な共同活動による捜査活動の結果、5月27日、ハバロフスク地方のワニノ村において、この犯罪を行った容疑により22歳の殺害された女性の息子が拘束され、ティモフスクに護送した。尋問の過程で、容疑者は自白した、以後、捜査官の請願により、彼に対し、勾留下での身柄保全処分措置が選択された。取調べによると、5月25日母親と息子の間で、息子がどこでも働いていないとのことで喧嘩となった。喧嘩の結果、息子は、キッチン用ハンマーを手に取り、母親の頭部をそれで殴打した。身体受傷により彼女は亡くなった。そして、息子は、責任から逃れることを望み、ティモフスクを離れた。2日後、彼の居場所がワニノであると特定された。現在、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ⑧〔殺人〕6月12日午後10時30分ころ、サハリ州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、ユジノサハリンスク市スチャストリバ通りの家屋の1つで暴力による死の痕跡のある29歳の男性住民の遺体が発見されたとの通報を受けた。この事実に関し、捜査課によって、ロシア刑法典の殺人で刑事事件が提起された。この犯罪行為の容疑により、36歳の地元の男が拘束され、彼に対し、捜査官の請願書による勾留下での身柄保全処分措置が選択された。捜査によると、容疑者は、知り合い女性のもとを訪れ、そこにはすでに、仲間が居た。飲酒の過程で、被害者は、家主に言い寄り始めた。そこで、彼と容疑者の中で嫉妬に起因する掴み合いの喧嘩が発生した。その後、女性家主と客達は、喧嘩を仲裁し、女性は、容疑者が喧嘩をけしかけたと見て、容疑者に家から出て行くよう頼んだ。しばらく経って、容疑者が元のところに戻り、家に入り、そこで再び、男との間で喧嘩が発生した。その結果、容疑者は包丁を手に取り、被害者の胸部を一度刺した。ナイフによる受傷により若い男性は、救急車が到着するまでに死亡した。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査が行われている。
- ⑨〔殺人〕サハリ州捜査委員会が、ユジノサハリンスク市のある家屋の1つにおいて、64歳の地元男性住民の遺体が発見された事実により捜査を行っている。現在、男性は自殺したとの、仮の見解がある。6月21日火曜日にサハリ州捜査委員会

ユジノサハリンスク市捜査課において、ユジノサハリンスク市エメリヤノフ通り17Aの家屋の庭で64歳の地元男性住民の遺体が発見されたとの通報を受けた。死因の可能性について捜査官は、拳銃のような物からの銃撃による傷であると語った。男性は、事件現場で死亡したと見られる。この事実により、ユジノサハリンスク市捜査課によって、追加捜査が行われている。事件状況を明らかにされている。

- ⑩〔殺人〕サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、同市コラジエズナヤ通り38の家屋において、暴力による死の痕跡がある住所不定の男性の遺体が発見されたとの通報を受けた。この事実により、捜査課によってロシア刑法典の殺人で刑事事件が提起された。緊密な警察の刑事課捜査官との共同作戦を行った捜査課の捜査官による精巧に地ならし捜査活動の結果、この犯行に関与していた者が特定された。彼らによって、ロシア刑事訴訟法により拘束された住所不定の37歳のユジノサハリンスク出身の男が明らかとなった。現在、彼に対する勾留下での身柄保全処分措置の選択に関する問題が検討されている。捜査によると、6月21日、容疑者は、被害者の下に客として滞在し、そこで彼らは、洗浄剤「プシスチク」を飲んでいて、飲用の過程で、被害者は、客を追い出し、この際、彼に向けて乱暴な卑猥な悪口言い始めた。このせいで容疑者は、ナイフを手に取り、被害者の胸部を一度刺した。その後、容疑者は、事件現場から姿を消した。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ⑪〔殺人未遂〕サハリン州捜査委員会トマリ地区捜査課によって、70歳の地元住民に対し、ロシア刑法典の殺人未遂の犯罪兆候により刑事事件が提起された。捜査によると、6月23日の深夜、容疑者は、前日に殴った自分の妻を連れて帰る目的で妻がいる自分の娘の家に着した。彼は自ら、猟銃を持ってきた。容疑者は、娘のアパートへ上がる際、同様にライフル銃を持った娘の同居男性に、出入口で呼び止められた。容疑者は、上擦った声で話し、話の途中で被害者に向けて銃撃し、それにより、顔の軟組織と胸部に散弾銃の銃撃による多数の怪我を彼に負わせた。被害者は自衛しながら、容疑者の足に銃撃し、そのせいで、下肢に銃撃による傷を受けた。救急班は、男性をトマリの中央地区病院に緊急に入院させ、そこで適時、彼に、医療支援が与えられた。被害者は、緊急処置で、ユジノサハリンスク市立病院に送られた。容疑者は、トマリの病院におり、彼は、拘束され、彼に対する、勾留下での身柄保全処分措置の選択に関する問題が検討されている。
- ⑫〔殺人〕6月27日深夜、サハリン州捜査委員会ネベリンスク市捜査課において、ゴルノザボツカ村ソビエツカヤ通り61Aのアパートの1つで、暴力による死の痕跡がある74歳の女性家主の遺体が発見されたとの通報を受けた。この事実により、捜査課によってロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起された。容疑により、前科のある36歳の地元の女が拘束された。現在、捜査官により、彼女に対し、勾留下での身柄保全処分措置の選択に関する問題が検討されている。捜査によると、被

被害者は、1人で暮らし、高齢のため、隣人男性に食料品と酒を買いに、商店に行くことを依頼し、それに対し、彼女は、彼に酒とつまみを与えていた。6月末に、男性は、病気となり、行くことを止めた。6月26日、彼のもとに息子と同居の女が訪れた。壁を叩く音を聞き、同居の女は、隣人女性のもとに行き、彼女が同居人の父親を酔わせたことが原因で父親が病気になったと話すことを決めた。言い争いの過程で女は、家主を殴った後、電子レンジのコードを手に取り、絞殺することを試みた。しかし、彼女は年配女性を殺害することができなかった。その後、彼女は、鉄製の腰掛けを持ち、被害者に少なくとも6回以上、頭部を殴った。受傷により、彼女は、事件現場で亡くなった。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。

3 暴行・傷害・強姦等

- ①〔傷害〕4月9日午前2時21分、ユジノサハリンスクのある娯楽施設で警報ボタンが作動した。事件現場に直ちに官庁外警備班隊員、パトロール隊が向かわされた。コムスチーチャスキー大通りにあるカフェに到着の際、警察官は、数人が関与している掴み合いの喧嘩を発見した。数人の隊員の尽力により、違法行為は阻止され、そして、首謀者の内の1人である21歳のサハリン在住の男が拘束され、ユジノサハリンスク市内務部に護送された。取調べの過程で、飲酒の際、この男は、客2名(27及び33歳)に負傷を与えたほか、支配人の話によると、バーカウンターを破壊し、4万8000ルーブルの施設への損害を引き起こした。現在、所轄警察によって捜査が行われている。
- ②〔傷害〕警察が漁業者を銃撃した男を拘束した。事件は、5月1日にマカロフ地区のポストーチナヤ村で起こった。岸壁付近で数人が休んでおり、突然、海側から数発銃撃が行われた。漁業者の内の1人が肺の負傷の原因となる散弾の跳弾に当たった。射撃者は、ちょうど岸壁に係留していた漁船の船上にいた。被害者は、医療援助を求め、事件について警察に通報した。事件現場に直ちに、司法機関の職員が向かった。警察官が到着した際、隣接する企業の敷地から更にもう1回、銃撃音が響いた。この銃撃では誰も負傷しなかった。事件状況について、内務部で報告がなされた。事件現場に完全武装の警察官のほか、幹部が出発した。企業の建物の内部で、34歳の酔った男が発見された。同様に2丁の未登録の狩猟用散弾銃及びその銃弾が発見、押収された。捜査が行われている。
- ③〔重度傷害〕ホルムスク地区プラウダ村在住の68歳の男が対立者の胸部へのライフルの銃撃により口論に終止符を打つことを決めた。銃器の使用原因は、中間的資料によると日常的な喧嘩だった。被害者は、右肺挫傷及び気胸の胸部銃撃負傷により、中央病院に入院した。州内務局プレスセンターが報じたところによると、ホルムスクの銃撃者に対し、ロシア刑法典の重大な健康被害の故意の惹起により、刑事事件が提起され、出頭に関する義務が選択された。現在、警察官が犯罪武器の捜索

を行っており、犯人は、司法機関関係者の到着までに犯罪武器を処分していた。事件状況に関する如何なる追加情報も、まだ、内務局にはない。地元住民の内の一人が通信社に伝えたところによると、銃撃は、容疑者が定期的に牛の放牧を行っていたリュブリノ村の草原の1つで発生した。何のためにこれまで平穏だった農場経営者にライフルが必要だったのか、放牧地の外れの水源保護区で働いている被害者を銃撃したが、何が、彼をそうさせたのか、まだ、推測に止まっている。彼は殆ど毎日、早朝からこの放牧地で牛を追っていた。なぜか彼は、ライフルを必要とした・・・もしかすると、熊を撃つためだったかもしれない。

- ④〔猥褻行為〕半年以上、彼は、13歳の女子児童と性的行為を行っていた。サハリン州捜査委員会ウグレゴルスク捜査課によって、21歳のシャフチョルスク在住の男に対して刑事事件が提起された。州捜査委員会によると、彼は、ロシア刑法典に規定の14歳に達していない者との性的関係及びその他セクシャルハラスメント行為の容疑がかけられている。取り調べによると、容疑者は、2015年8月から2016年5月まで、13歳の地元在住の女子児童と性的行為を行った。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。刑事事件捜査は続けられている。
- ⑤〔性的暴力行為〕5月25日、ユジノサハリンスクの内務局の当直部門において、地元女性住民からアパートの玄関で彼女の8歳の娘が不明者に襲われ、彼女に対して性的不可侵者に対する犯罪を彼女に対して行ったとの申告を受けた。警察官は、捜索活動措置を行う際、エセニン通り7の家屋の付近で、男を拘束した。彼は、内務局に護送された。身柄保全に関する問題が検討されている。ユジノサハリンスク捜査課によってロシア刑法典に規定の性的暴力行為の犯罪構成要件により刑事事件が提起された。犯罪行為の容疑により、以前から複数の前科があり、住所不定の37歳の男が拘束された。現在、捜査官によって、犯人に対する勾留下での身柄保全処分措置の選択に関する裁判所への請願書の送付について検討されている。捜査によると、5月25日午前11時、少女は、散歩のために犬を連れて歩いていた。少女が自分のアパートの玄関に立ち寄った際、玄関にいた容疑者が、彼女の背後から口を塞ぎ、配電盤室に引きずり込んだ、そこで、少女に対して、暴力的なセクシャルハラスメント行為を行った。刑事事件捜査が続けられている。
- ⑥〔重度傷害〕サハリン内務局は、オハのパトロール課の職員への襲撃行為で容疑がかけられている31歳のロシア人を捜索している。更に、犯罪に関与した1人を追跡により拘束し、彼は、すでに自白している。ロシア刑法典の故意による重大な健康への加害により刑事事件が提起された。5月29日、オハ市ブリュヘル通りにある第7学校の付近で、被捜索者の男は、29歳の地元男とともに、21歳の内務局オハ内務部パトロール課の職員を襲撃した。警察軍曹は、家に帰る途中で、職務遂行義務はない状況だった。犯人達は、アルコールによる酩酊状態であり、個人的恨

みから、犯罪武器として棒を使用し、警察官の身体に危害を加えた。被害者は、頭蓋外傷、頭骨骨折、多数の頭部、身体への怪我と診断された。警察官は、地区病院の救命科におり、意識はない。

- ⑦〔性的暴力行為〕6月6日、サハリン州捜査委員会マカロフ地区捜査課によって、多数の前科がある19歳の地元の男に対して刑事事件が提起された。彼は、ロシア刑法典の性的な性格の暴力行為の犯罪を行った容疑がかけられている。捜査によると、容疑者は、マカロフ市サハリンスカヤ通り18の家屋の地下室において、16歳の地元女性に彼の妹との間に起こった喧嘩が原因による個人的な恨みを抱き、彼女に対して、性的な暴力の兆候がある行為を行った。現在、刑事事件のため、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ⑧〔重度傷害〕サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、州立病院救命科で、6月13日午前1時13分ころ、頭蓋外傷、顔面への受傷、上肢に複数の怪我がある30歳の地元男性が搬送され、死亡したとの通報を受けた。この事実により、捜査課によって、ロシア刑法典の重大な健康被害への故意の惹起により刑事事件が提起された。この犯罪を行った容疑で、殺人の前科がある38歳の地元の男が拘束された。容疑者に対し、捜査官の請願により、勾留下での身柄保全処分措置が選択された。捜査によると、6月12日、男A（容疑者）に彼の同居女性が電話をかけてきて、男B（被害者）に殴られたと伝えた。男Aは、園芸組合「アイボリト」の中にあり、同居女と男Bがいるはずの別荘に到着した。到着した男Aが、同居女を侮辱した男Bのいる部屋に入っていくと、まず男Bが男Aにナイフを持って飛びかかり、腕に傷を負わせた。これに対し男Aは、手や足で男Bの体の様々な部分を何度も殴る蹴るし、鉄パイプを手に取り、彼の頭部を殴った。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。6月15日午前2時50分ころ、捜査課において、勾留所の独房の1つで容疑者が死亡していることを確認したとの通報を受けた。彼は、首をつっていた。現在、捜査課によって、全ての事件状況を明らかにするための措置が行われている。
- ⑨〔強姦〕サハリン州捜査委員会マカロフ地区捜査課によって、複数の前科がある19歳の地元の男に対して、刑事事件が提起された。彼は、ロシア刑法典に規定される性的な性格の暴力行為の犯罪を行った容疑がかけられている。捜査によると、容疑者は、マカロフ市サハリンスカヤ通り18の家屋の地下におり、彼の未成年の兄妹との間の喧嘩が原因で16歳の地元女性に個人的恨みを抱きつつ、後者に対し、暴力を用いた性的性格行為を行った。現在、刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。

4 窃盗等

- ①〔窃盗〕65歳の地元男性がユジノサハリンスク警察に身分証明書の盗難に関する

請願を訴えた。被害者は、4月13日の夜、29歳の同僚と飲酒し、間もなく寝入ったと説明した。目覚めるとパスポートがなくなっていることに気付き、そして、飲み仲間はずでいなかった。刑事課の警察官は、効率的に犯人の捜索を行い、犯行目的を明らかにした。容疑者は、銀行の職員がこの身分証明書と借主個人の違いに注意が向かないことを期待して、被害者のパスポートで融資を得ることを目論んでいたことが分かった。しかしながら、犯人の目論見は、最後まで達せられず、拘束された。ロシア刑法典の市民のパスポート又はその他の重要な私文書の窃盗により刑事事件が提起され、最高刑は、3ヶ月間の禁固である。容疑者に対し、現在地を離れない旨の誓約書へのサインでの身柄保全処分措置が選択された。

- ②〔窃盗〕 ユジノサハリンスクにおいて、日本製RV車の窃盗に関する容疑者が特定された。外車の所有者は、街から出て、友人に車の監視を依頼した。自動車は、かなり古く、私有地に置いてあった。私有地の側を通行していた金属屑収集人は、自動車の監視を依頼された男性に、このRV車は誰の物なのか尋ねた。その後、不明の者は、金属屑のために自動車を取得することを可能にするため、金を渡すことを提案した。法的な権利はないが、男性は、その取引に同意し、5000ルーブルを受け取った。所有者自らが、友人に任せたRV車の状態を調べることを決めたが、車を以前の場所では発見できず、彼は直ぐに警察に通報した。30歳の容疑者は、警察官によって拘束され、今後の事件状況の特定のため、警察に連行された。ロシア刑法典の窃盗により刑事事件が提起された。身柄保全処分として、現在地を離れない旨の宣誓が選択された。容疑者は、以前からすでに警察にマークされ、前科があった。
- ③〔窃盗〕 5月8日コルサコフ地区内務部に、48歳のコルサコフ在住の女性が窃盗に関する申告を行った。申告女性は、彼女の未成年の息子が何者かに17000ルーブルの自転車を盗まれたと話した。警察は窃盗に関与した前科のある23歳のコルサコフ在住の男及び事件状況を特定した。少年は、自転車を絶えず、玄関に置いていた。それをこの男は毎回見ていた。ある朝、犯人が仕事に向かい、自転車の近くを通った際、無造作にそれに乗り、立ち去った。容疑者は、彼は単に徒歩で仕事に行くことに疲れていたと説明した。この事実により刑事事件が提起された。男に対し、現在地を離れない旨の宣誓による身柄保全措置が選択された。盗まれた自転車は押収された。
- ④〔窃盗〕 ユジノサハリンスク警察の当直部門において、州都の個人企業家の内の1つから窃盗に関する申告を受けた。被害者は、深夜、何者かが商店の建物に侵入し、そこから800万ルーブルが入った金庫を盗んだと伝えた。警察官は、犯人は金属製シャッターのヒンジを外し、プラスチック製の窓を押し開けて建物に侵入したことを突き止めた。犯人は、金属製の箱をすぐには開けることが出来なかったことから、金庫ごと盗んだ。間もなく、捜査員が文字通り僅かな情報を集め、容疑者及び更な

る事件の状況を特定した。犯人達は窃盗後、すぐに州都の郊外に向かい、そこで盗んだ金庫を壊し開け、金庫を捨て、金を分配し、様々な方向に分かれた。彼らの内の1人が島の北部に向かった。他の者は、南部地区の1つに向かった。全ての策略にもかかわらず、両犯人は、拘束された。検査の過程で、窃盗物の一部が押収された。現在、犯人達（両方とも財物犯罪の前科がある30歳のサハリン州出身の男）は拘留されている。ロシア刑法典の特に高額な窃盗により刑事事件が提起された。この犯罪行為に対する刑罰は法律によって10年までの期間の自由剥奪が規定されている。

- ⑤〔窃盗〕5月23日、ウグレゴルスクで事件が発生した。67歳の女性が店から家に戻っていた際、足を捻って、転倒した。これを見ていた、2名の若者が女性年金受給者に近づき、介助することを提案した。彼らの内の1人が鞆を持ち、残りの者が食料品の入った袋を拾い上げ、少年達は家まで老女に随行し、彼女は彼らに感謝した。しかし、女性年金受給者は、自分の家で鞆から現金がなくなっていることに気づいた。女性はすぐにこのことを警察に通報した。警察官が被害者に質問し、事件構図を作った。窃盗は以前から警察にマークされている若者達によって行われたと予想した。被害者に未成年事件課に登録がある未成年者の写真を見せ、申告女性は、間もなく、彼女を介助した者達の内の1人を確認した。正に、彼は現金を盗んでいた、このことを女性を家まで一緒に随行した友人にさえ伝えていなかったことが明らかとなった。ロシア刑法典の窃盗により刑事事件が提起された。
- ⑥〔窃盗未遂〕5月28日、ユジノサハリンスク市コムニスチチェスカヤ通り（第1診療所のバス停）の「ズベルバンク」のATMコーナーが再び、破壊者の手により、損害を受けた。しかし、今回、4月5日の深夜のように酷いものではない。不明者は、まず、ATMコーナーを開けようと試み、その後、そこを爆破したことが想起される。しばらくの間、ATMコーナーは営業できなかった。修理後、ATMコーナーは再び、開店したが、そうしたところに、次の加害行為があった。破壊は、ATMコーナーの営業に影響しなかったが、誰が、このようにしつこく、この「ズベルバンク」の施設に敵意を向けるのか、不可解である。
- ⑦〔窃盗〕サハリン内務局刑事部の職員がスキャニング装置を使用した自動車からの窃盗を行っていたロシア人グループを拘束した。6月10日、47歳のホルムスク在住の男性がユジノサハリンスク市内務部に申告した。男性は、彼の財布から現金が無くなったと伝えた。財布は、彼が、カール・マルクス通りとジェルジンスカヤ通りの交差点の区域に駐車していた自動車の中に残っていた。州内務局捜査部の警察官は事件現場に出発した。被害者の外車の検査の過程で、刑事達は、こじ開けた何らかの痕跡はなく、全てのドアロックは、誰も壊して開けておらず、全ての窓は損傷はないことを確認した。犯行の際に、警察官達は、州都で2人の男がスキャニング装置を使って自動車所有者の財産の窃盗を行っているとの情報を有していた。

外観は、自動車の警報装置用の通常の遠隔コントロール装置に見える犯罪道具だった。しかし、実際には、自動車の警備プログラムを読み出すようにプログラムされたスキャン装置だった。スキャナーは、信号を傍受し、それを書き込み、その後、自由に警報を切ることができる。捜査員達は、追跡により容疑者の内の1人をエメリヤノフ通りで拘束した。容疑者の身体検査の過程で、スキャン装置のほか、現金が発見、押収された。翌日、2人目の容疑者が拘束された。この男達が7件の窃盗に関与していたことが、警察によって全て明らかとなった。刑事事件が提起された。容疑者の内の1人に対し、勾留下での身柄保全措置処分が選択された。2人目は、現在地を離れない旨の誓約書へのサインによる身柄保全措置処分にある。両者は自白した。

5 薬物・銃器等

- ① [爆破事件] ユジノサハリンスク市コムニスチーチェスキー大通りのバスの停留所(第1診療所地区)に設置の「ズベルバンク」のATMコーナーが、4月5日の深夜、何者かに爆破された。全ての状況で判断すると、市民達は手製又は低威力の爆発装置があったと推定している。内部に2台ATMが設置されていたATMコーナーのガラスとドアは破壊されたが、犯人はATMに損害を与えることができなかった。目撃者は、現在、現場では「ズベルバンク」の集金人が作業していると伝えている。深夜、救助要員及び消防要員が現場へ出発した。その後、目撃者は、ATMには鋸で切断したような痕跡があり、ATMをエンジンカッター(チェーンソー)様の物で切り開こうと試みられたと伝えた。事件現場では、ガスボンベも発見された。警察のプレスセンターによると、4月5日午前3時28分、ユジノサハリンスク市内務部当直部門において、民間警備会社の職員からコムニスチーチェスキー大通りにおいて、不明者によってバスの停留所に設置されたATMが破壊されたとの通報を受けた。直ちに現場に機動捜査班とATM所有者の安全課の代表者が出発した。事件現場の調査が行われた。現在、犯人の捜索に向けた捜索活動措置が行われ、調査が続けられている。「ズベルバンク」において事件に関して、通信社SAKH.COMの特派員に対し次のコメントをした。「我々は、時限装置によりATMコーナーが破壊されたことを確認します。現在も捜査中です。捜査利益のため詳細は明らかにされていません。被害者はいません。」
- ② [薬物] サハリン州内務局刑事部の警察官によって、合成麻薬の販売網を作った組織犯罪グループ員、関係者の活動が阻止された。彼らは、インターネットで顧客を探し、オンラインショップを通じて様々な量で麻薬を販売していた。注文を受けた後、犯人らは隠し場所を準備し、特別なインターネットプログラムと電子決済システムを使用して行っていた。支払い事実の確認は、麻薬の置き場所を顧客に伝えていた。捜索活動措置の結果、警察によって、今年初めから州領域で活動していた犯

罪集団の活動関与者6名が拘束された。拘束者それぞれが明確に役割（倉庫係、金融係、オペレーター、インターネットショップ店長、バーテン、会計士など）をもっており、時には、一つだけではなかった。捜査員は幾つか捜索を行い、その結果、合成麻薬が入ったパケット数十袋、製造のための設備、様々なメモ、携帯電話及びその他の証拠物件が押収された。とりわけ、借りていた部屋の1つにおいて、グループ関係者の一人が喫煙混合物を製造していた特殊試薬物質が発見された。押収物の総量は、5500回以上分の使用量の麻薬を売人が準備できる46グラムだった。常に入ってくる金銭の流れを合法化する必要があった。そこでは、警察によって解明された「洗浄（ロンダリング）」の仕組みが機能していた。犯罪グループの会計士がインターネットバンキング、知り合いの銀行カードを用いて全ての売上金を合法化していた。現在、ロシア刑法典の麻薬又は向精神薬の組織的な不法製造、送付若しくは販売により、4件の刑事事件が提起された。最高刑は、20年の自由剥奪が規定されている。2名の容疑者に現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全処分が選択され、更に、2名の容疑者は、自宅監禁。残りの犯罪グループのメンバー2名は、拘禁下にある。

- ③〔薬物〕サハリン州内務局捜査課の捜査員による特別作戦の実施の結果、島領域へのハシシオイルの供給経路を封じた。総合的な捜索活動措置の結果、警察官は、サハリンに麻薬の搬送を行っていた45歳のホルムスク在住の男を拘束した。取引禁止物質は、犯人が大陸から郵送により受け取っていた。数週間、捜査員は、彼の刑事責任を追求するのに必要な証拠を収集するため、また、麻薬の保管場所及び麻薬の流通経路を特定するために、容疑者に対する集中的な監視を行った。5月5日、内務局刑事課の捜査員は、この男のアパートの捜索措置を行った。容疑者の住居で、警察官は、濃い褐色のタール状の物質が入った2本のポリマー製の瓶を発見した。そのほか、犯人自身の身体検査の過程で、すでに販売用に小分けされた同様の内容物が入ったビニール袋が発見された。専門鑑定は、押収された容器には、ハシシオイル1146.09グラムがあったと確認した。ビニール袋には、77.86グラムのハシシがあった。現在、大陸からサハリン州への麻薬の違法供給に関与した他の個人の特定が行われている。容疑者は拘留されている。この事実によりロシア刑法典の特に大量の麻薬物質の違法な入手、保管、運搬、製造、加工で刑事事件が提起された。この条項の刑罰は10年から15年の自由剥奪が規定されている。
- ④〔薬物〕裁判所守衛の活動によって、薬物を所持してユジノサハリンスク市裁判所建物内に入ろうとした違反者が摘発された。裁判所守衛は、民事公判に参加のため到着した男に、所持品のうち金属物及び裁判所建物内に持ち込みが禁止されている物件を取り出すこと並びに警備機器を用いた検査を行うことを要求した。男が、常設の金属探知機を通り抜けた際、彼が金属物件を所持していることを検知

する警報が作動した。禁止物件の所持についての質問に再び否定的な回答をし、胸ポケットへの携帯型金属探知機を用いた再検査の後、訪問者から3個の不審な金属箔が発見された。裁判所守衛は、すぐにサハリン州麻薬流通監督庁の運用班に電話をし、麻薬の保管と使用に関与している容疑者は、今後の捜査のため、麻薬流通監督庁に引き渡された。鑑定は、押収した金属箔の中にマリファナがあったと特定した。男は、ロシア連邦行政違反法典により5000ルーブルの罰金に問われるほか、ロシア連邦行政違反法典により行政違反事件が提起された。

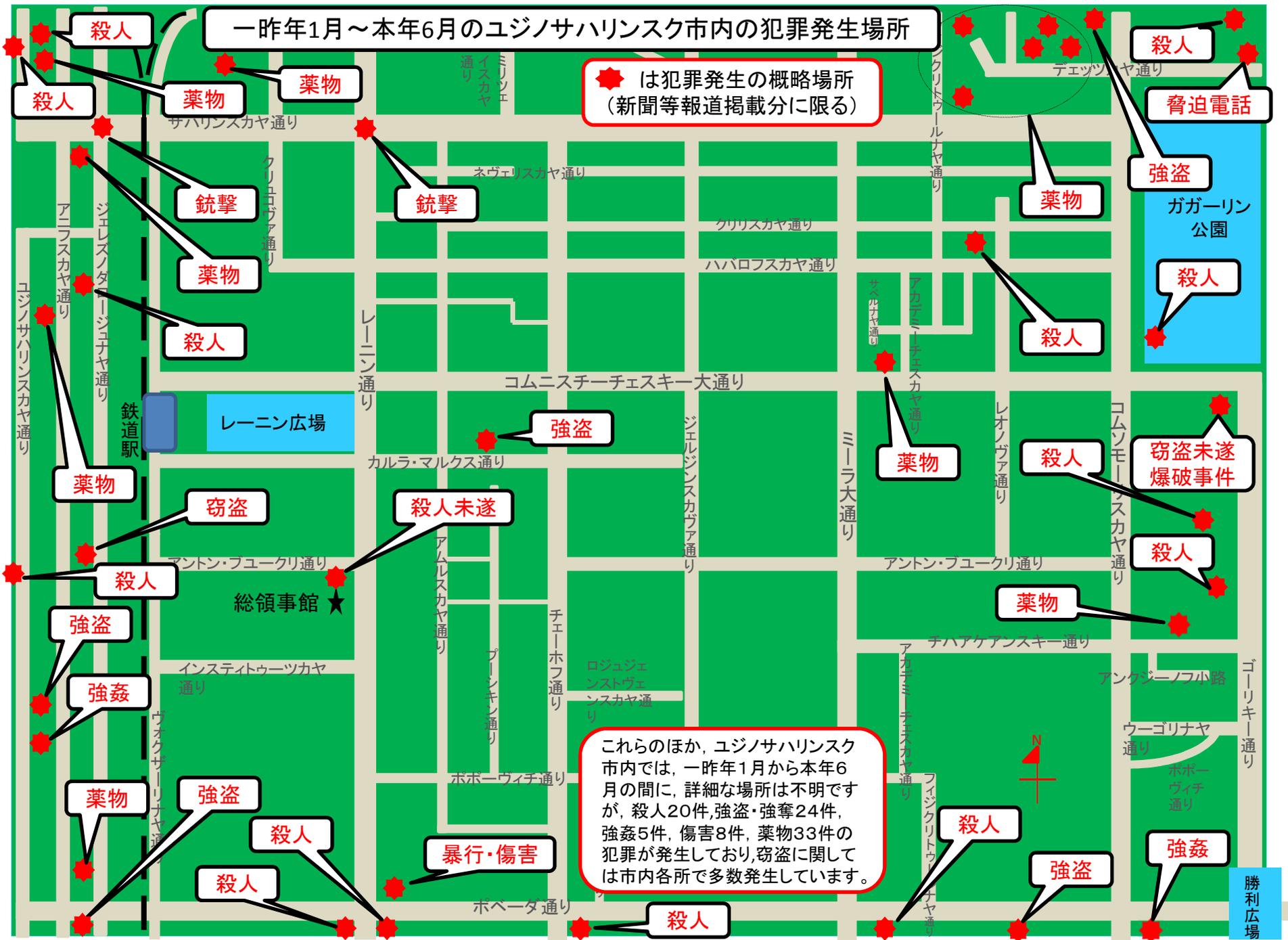
- ⑤ [薬物] 37歳の男が、ビニール製パッケージの中の合成麻薬を運搬した。6月10日、捜査措置実施の過程で、ホルムスク交通警察の警察官によって、大量の合成麻薬が男性から発見された。事前情報によると、37歳の男は、ビニール製パッケージで合成麻薬「スパイス」を包装していた。麻薬物質の総量は大量に当たる1.2グラムだった。容疑者は、以前から同様の犯罪行為により司法機関にマークされていた。現在、この事実により、サハリン州内務局交通部捜査課によってロシア刑法典の麻薬又は向精神薬の不法な製造、取得、所持、運搬、送付若しくは販売により刑事事件が提起された。
- ⑥ [薬物] ユジノサハリンスク市交通警察によって、6月15日の深夜、コモソモーリスカヤ通り地区での職務遂行の過程で、日本製自動車を停車させた。車内で薬物と思われる物質が発見された。運転席には、33歳のユジノサハリンスク在住の男が乗っていた。彼は、警察官と話す際に明らかに興奮し、質問に支離滅裂に回答した。自動車の検査を行う過程で、運転席ドアの小物入れの中から植物由来の麻薬と思われる包みが発見された。今後の捜査のため、現場に機動捜査班が呼ばれた。押収物は、鑑定に出された。この事実に関して捜査が行われている。

6 その他

- ① [脅迫電話] 4月10日の深夜、クラブ「ピープル」において、爆破装置が「仕掛けられた」。4月10日、警察の当直に、男からクラブに爆弾を仕掛けたとの申告を受けた。事件現場に出動命令を受け、非常事態局、官庁外警備班、パトロール班、交通警察、警察犬とハンドラーが到着した。施設内の客は避難させ、建物周辺の地区は、封鎖された。店内とその周辺は、調査が行われた。捜索措置の結果、爆破装置は発見されなかったと、サハリン州内務局プレスセンターは伝えた。爆発物の捜索と平行して、警察作戦班が電話をした個人の特定のための措置を行った。数時間後、犯人の特定及びその居場所が特定された。容疑者はアルコール酔いの状態にあり、「テロ行為」場所の向かいにあるナイトクラブ「DUKE」で悲しみに浸っていた。「私の知る限りでは、4月8日夜に彼は初めて「ピープル」に来た。そこで彼は、程良く寛いでいたが、「ブラックカード」でクラブから彼は追い出された。彼がそこで何をしでかしたのか、私は全く分

からない。」4月10日の深夜、彼は再び、クラブに入店しようとしたが、それは許可されなかった。このせいで多分、彼は立腹し、このようにして復讐することを決めたと事件の目撃者の1人が通信社の特派員に語った。「そして、私の目の前で彼は拘束された。男性2名が「搜索だ！」と叫び、出入口で彼を服従させた。」数年前、彼はすでに同様の犯罪で責任を問われ、多額の罰金刑を受けた。この事実に関して、ロシア刑法典のテロ行為についての明らかに虚偽の情報を流す行為により刑事事件が提起された。この犯罪は、100万ルーブル以下又は刑の言い渡しを受ける者の18ヶ月から3年分の給与・所得相当の罰金或いは、5年間の自由剥奪の刑罰になる。

- ②〔銃器脅迫〕5月2日、アニワ市区内務部において、知り合いの男が銃器で脅迫してきた旨、ノバ・トロイツカヤ村の2人の女性住民からの通報を受けた。警察官は直ちに、この住所に出発した。犯人は逃走を試みたが、直ぐに、警察官が犯人の車を発見し、追跡を開始した。交通警察職員の精巧な行動によって、容疑者は、警察の車両によって行く手を阻まれた。外車の運転席に居たのは、ウグレゴルスク村に居住の1988年生まれの男だった。車内の搜索の過程で、前方の助手席の下で銃器及び銃弾が発見され、警察官が押収し、鑑定に送られた。発見物を鑑定した鑑定官は、提出された物件は、射撃に適する自家製の銃砲であると結果を出した。ロシア刑法典222条（銃器、弾薬、爆発物及び爆破装置の違法な取引、引き渡し、販売、保管、運搬又は所持）に規定される犯罪構成要件により、刑事事件が提起された。この殺人脅迫事件に関して捜査が行われている。
- ③〔脅迫〕5月に、40歳の男性が、ユジノサハリンスク市内務部に、何者かが、銃で彼を殺すと脅迫してきたと伝え、申告してきた。警察が、事件の状況を明らかにした。5月21日、被害者は、同市オクチャプリスカヤ通り1に所在するスーパーマーケットに立ち寄った。レジの近くで、彼は、他の客と言い争いとなった。間もなく、申告者は、言い争いが終わったと思った時、男達は、各自分の用事へ向かった。申告者は、買い物をし、店から出て、車に近づき、地面に購入物の入った袋を置いた。この時、彼の側に車が停車し、数分前に言い争いをした買い物客が車からか出てきた。その不明者は、銃を持ちながら、被害者を殺すと言った。その後、被害者は、車の向こう側へ離れ、脅迫者は、自分の車に乗り、姿を消した。機動捜査班は、事件現場に出発し、そこで目撃者を尋問し、外周の監視カメラの録画が押収された。同様に、容疑書の身元、居場所の特定に向けた措置が行われた。結果、犯人が特定された。43歳の前科があるユジノサハリンスクの住民であることがわかった。容疑者は、銃を押収され、出頭誓約が取り付けられた。ロシア刑法典の殺人又は重大に健康被害による脅迫により、刑事事件が提起された。



一昨年1月～本年6月のユジノサハリンスク市内の犯罪発生場所

★ は犯罪発生の概略場所
(新聞等報道掲載分に限る)

これらのほか、ユジノサハリンスク市内では、一昨年1月から本年6月の間に、詳細な場所は不明ですが、殺人20件、強盗・強奪24件、強姦5件、傷害8件、薬物33件の犯罪が発生しており、窃盗に関しては市内各所で多数発生しています。

勝利広場